

# 川柳 さいたま

700号誌



川津桜

平成30年 (2018年)  
3月号 (No.700)

日川協加盟

## 巻頭言

航跡(こうせき)

願法みつる

青空に長大な航跡雲。大海原に一筋の白く輝く航跡。乗客・乗員には、航跡雲は見えない。航跡は長い航路の気休めにチラリと眺められる時の他は、意識されない。住み慣れ、通い慣れた街や道の、街路樹や電柱の一本一本と同じである。航跡は消えても過去は存在する。常日頃、身を入れて投稿したり、字面を追って鑑賞しながら馴染んでいる筈のさいたま誌も、ある月日を隔てれば、積み上げられた冊子になってしまう。敢えて声を掛けなければ、消えてゆく航跡である。しかしそこには、確かな歴史の記録が載っている。

発刊誌は、国会図書館以下、地域の図書館や新聞社に残存する。そして、多くの川柳関係者の絆の何処かに、ひっそりと鎮座している。

今、さいたま誌・700号発刊にあたり、長らく過去を紡いでこられた諸先輩に、唯々敬意を表するばかり。昭和33年「さいたま」の前身「あだち」創刊時の方は、内田雪彦氏と前島滋朗氏だけになってしまった。

編集業務の繁多なことは、ご存知の方も多いと思う。ここに現・編集部員を列記して、その労を多としたい。岡澤芳枝・岡田時雄・岡田秀夫・織田和子・金子育司・木崎栄昇・西松忠義の各氏である。

偶の校正ミスも、ご愛敬としてお許し願いながら。

日日は好

願法みつる

N極の背に離れないSの極

夕陽に泣いて朝の陽にありがとう

返杯へ水に流したあれやこれ

軸足を変えて地球を踏んづける

最上の宝と思う恙無さ